



日光江戸村内では定期的にライブショーが開かれる

日光江戸村(栃木・日光)

江戸時代の文化を体感できる栃木県日光市のテーマパーク「江戸ワンダーランド日光江戸村」。近隣にある鬼怒川温泉の衰退と歩を合わせるように減り続けてきた入園者数が〇七年度は五年ぶりに増加に転じる見込み。

「立役者」は外国人の観光客。海外でも広く知られた「ニンジャ」「サムライ」を武器に観光客誘致を進めている。

東武鉄道の鬼怒川温泉駅から車で二十分ほど。温泉街を抜けると、江戸時代の雰囲気再現した街並みが現れる。「夏場

はタイ人の入園者が目立った」。江戸村を運営する時代村(栃木県日光市)の野口良一副社長は驚きを隠さない。

好調な海外からの集客の呼び水となったのは昨夏に初めて開催した海外公演。「国内にばかり目を向けては生き残れない」(野口副社長)と

タイで三回、シンガポールで一回、国際観光振興機構が主催するイベントに参加。江戸村で活躍する俳優たちが忍者ショーを披露し、イベントを盛り上げた。

人だかりができるほど

起死回生の海外ショー

の反響だったタイでは早速、現地の旅行会社がTDLやUSJと並ぶ日本観光スポットとして江戸村を紹介したほど。〇七年度の外国人の入園者数は東南アジア諸国と米国を中心に前年比五割増の五千八百人に伸びる見込み。江戸村では現在、タイ語を始め英語、ドイツ語、韓国語など七カ国語のパフレットがそろ

う。江戸村は一九八六年に開業。江戸の文化をテーマにした施設やショーに加え、マスケットキャラクター「ニャンまげ」の人気もあって、最盛期には一日一万四千人が訪れるほどの人気だった。ただ、レジャーの多様化によるテーマパーク離れが進む中、〇一年度に年間五十二万五千人だった入園者数は毎年一五%程度ずつ減少。ここ数年は社員たちが本業の傍ら施設内の店舗で販売員を兼ねるといった地道な経費削減を積み重ねた。

海外からの集客で息を吹き返した江戸村の〇七年度の予想入園者数は三十万人。入園者を十万人上積みできれば、海外公演を恒常的に仕掛けていく」と野口副社長。昨夏の評を受けて、今年も二月にタイとシンガポールで海外公演を行う。